



中央区のあゆみ

望月三之
中央区子ども会連合会会長

当会創立の昭和48年において、旧与野市（現中央区）内では約60余りの子ども会があり、各地において独自の活動をしていました。そして、県教育委員会ならびに与野市教育委員会社会教育課の指導の下、市内の子ども会が一同に会して市子連が立ち上がりました。

昭和48年11月 与野市子ども会育成者連絡協議会（子育連） 設立

昭和50年10月 第1回こども大会開催（於：秋が瀬公園）

昭和52年2月 広報紙「子育連だより」創刊

昭和57年3月 5年生リーダー研修会（於：与野コミュニティセンター）

昭和58年3月 埼玉郷土かるた県大会参加（於：大宮市）

50年代はサッカー大会やボートボール大会が盛んに行われ、子育連ができて間も無いこともあり各子ども会が活発に活動しました。

昭和60年2月 埼玉郷土かるた大会 第1回 与野市大会

昭和63年7月 第1回つなひき大会 本町小体育館

昭和63年8月 第1回サマキャンプ 青少年総合活動センター

子育連の設立に関しては、与野市の教育委員会社会教育課に後押しされスタートしましたが、その後も他の社会教育団体との連携にご協力いただきました。特に、「与野市青少年相談員協議会」や「与野青年会議所」にはサマキャンプや子どもフェスティバル・綱引き大会ソフトボール大会等々の事業にご協力いただきました。

平成元年8月 第2回サマキャンプ 名栗せせらぎキャンプ場

平成3年7月 与野市子ども博覧会を与野JCと共催した

平成5年11月 創立20周年を迎える

平成13年6月 旧3市の市子連が合併し「さいたま市子連」が誕生し、旧与野市子連は「中央区子ども会連合会」として出発した。

平成15年4月 30年間子ども会育成に尽力された石塚会長退任

平成17年11月 下落合小学校校区が地域の防犯活動に対し文部科学大臣表彰を受賞しました。

この時代、三市合併・政令指定都市へ移行・岩槻市の合併などがつづき一気に大都市になってしまった感がありました。

子ども会活動も各市それぞれの成り立ちが異なる中、必ずしも足並みをそろえることは難しいのですが、子ども会は地域の特性をもって活動するのが望ましいわけで、それぞれのところで子ども達の故郷づくりをしてもらいたいものです。中央区においては新都心の誕生により、マンションが林立し新しい住民が増加し、少子化の昨今ですが、子どもの数も増えています。

現在中央区子連の最大行事は「彩の国21世紀郷土かるた・中央区大会」です。

かるたには、私たちが楽しく遊びながら、郷土埼玉の歴史や人物、重要な産物、雄大な山や川などをよく知り、郷土を愛し、郷土埼玉のために力を出し合える県民になってほしい、という願いがこめられています。勝敗にこだわらず、郷土が育てた人物や美しい自然、文化や産物を心にえがきながら、ルールを守って礼儀正しく、仲よく遊びましょう。

これからの子ども会

児童数にみる子ども会への参加割合についてみると、本年度中央区内の児童数は5008人ですが、当会への加入は2079人となっており41.5%の加入率という状況にあります。

このことは、子どもたちを取り巻く環境の変化であり、大人たちの意識の変化と考えられます。子ども会の役員となり手がなないために、子ども会組織を休会としたり、小学校6年生の親が役員となる慣例がある子どもがその年齢に達する前に脱会させたりする状況があります。子ども会の在続が、危ぶまれている状況もあります。



魅力ある子ども会を目指して

桜区

細井睦子
桜区子ども会連合会会長

さいたま市子ども会育成連絡協議会発足10周年おめでとうございます。

可憐で優しい桜草を区のカラーに、区名も日本を代表する桜の名を頂き、区名に恥じないように精進している桜区子ども会連合会は、郷土埼玉を誇りに思い、社会に貢献するために自分を磨き、手始めとして「21世紀彩の国郷土かるた」を学んで、夏にはかるたに因んだ場所へ訪れ知識を広め、秋にはウォークラリーを通して心身の健康に勤め、交通ルール、クラフト、ゲームと凝縮された内容で子ども達はもとより、ご家族にも楽しんでいただいています。

さいたま市子連は、平成13年からスタートしましたが、桜区の実上のスタートは、平成18年7月になります。当初の4年間は、旧浦和市を元に構成された浦和市子ども会育成連合会をそのまま継承して活動を行っていました。



平成22年度「安全講習」から

それまで、区の活動を進めてくださいという言葉に鵜呑みして、桜区役所に足繁く通ってなんとか区の活動を盛り上げるためにかかるたから始めようと、桜区大会と称して土合小学校を皮切りにかかるた大会を開催しました。後日談ですが桜区だけ足並みを揃えないというお叱りの言葉を受けました。あんなに区の活動を促進せよと言っていたのにー！それでも子ども達の笑顔が支えとなって、ご協力いただける世話人さんたちに活力をいただき、桜区子ども会連合会は、イベントも充実し、発足してから毎年変わらず「世話人講習会」、「安全講習会」、「彩の国郷土巡りバスツアー」、「ウォークラリー大会」、「かるた講習会」、「区かるた大会」を主催していますが、参加する子ども達はリピーターが増えて、行事を支える世話人さんたちもベテランになってきました。

しかし、それとは裏腹に平成13年には、21団体あった単位子ども会も14団体と減少してしまいました。それぞれの地域にはそれぞれの事情があり、役員さんの引き受け手の問題で消滅したところや、安全会に加入しなくても大丈夫ということで脱会したところや、実際に子どもの数が激減して成立しないということが主な原因でした。

子どもの数はその地域では激減していても、別の新しい地域では新しい芽が育っているはずなのですが、独自の活動を行っていて区子連への加盟はありません。この場合も、加盟すると役員の負担が増えるという考え方が原因です。魅力ある子ども会にと謳って、何年も経過してしまっていますが、子どもだけでなく大人にも魅力を感じてもらう必要があります。そんな中、夏の企画バスツアー第1回目は「筑波宇宙科学センター」でした。これも今や宇宙ステーションのキャプテンとなった若田浩一さんに因んで訪れましたが、実際の作業現場に打ち上げ直前の「きぼう」が置いてあり、テレビで宇宙ステーションの報道がある度に、「あれは自分が筑波で見た」とテレビのニュースにも興味がそそられ、いずれは第2の若田さんを輩出するきっかけになるのではないのでしょうか？一方でウォークラリー大会の内容は、実にユニークで魅力のあるものとなっています。昨年度、今年度と川をテーマにして龍神伝説を作りーもちろん元々あった話をアレンジしてー、昨年度は、浦和市場内を通るルートで地域活性化に貢献し、今年度は、「河童の森」にかっぱを蘇らせるといった子ども達には大満足の企画となりました。役員さんは、このためにたくさんのクラフトに時間を費やし、ルート確認に、夏の暑い最中倒れそうになってコマ図作成をしてくださいました。この情熱は、子ども達に必ず伝わっていると思います。

さいたま市子連は、10周年ですが、区子連は、6年目を迎えます。まだまだ子ども会の必要性、魅力といったところを伝えきれていないように思いますが、6年間で振り返ると前進していると言う実感があります。子ども達にもこの実感を受け止めていただける日が必ず来るものと信じて、子どもの手による子ども会を取り戻せるよう6年目の事業に取り掛かります。



平成21年度「バスツアー一川の博物館」にて



平成22年度ウォークラリー大会から
河童の森で今でも待っているよ



創立10周年を記念して

帆足和之
浦和区子ども会連合会会長

東北関東大震災惨事にご関係の皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。
光陰矢のごとしと申しますが、感無量を思い、子ども会、こども達の成長と共に活動することへの有意義な感動は何ものにも変えることはできません。

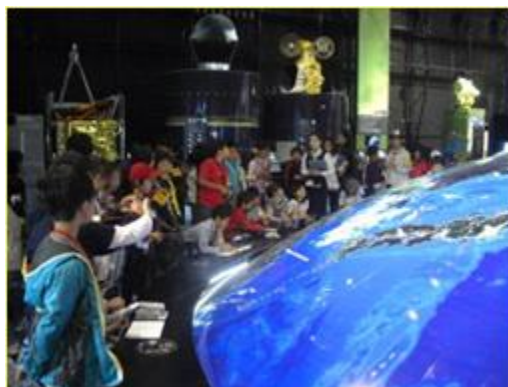
振り返りますと四市合併にともない役員との交流関係も拡大されそれぞれ過去の活動内容も合議されまして、さいたま市子ども会育成連絡協議会として本年10周年を迎えるに到りました。

各区割の活動についてはそれぞれ特長をもち、我が浦和区に於きましては、毎年バス日帰研修会（筑波宇宙センター）見学及び駒場サッカー場の清掃であります。年々参加者の増員は大変嬉しくご父兄共々の清掃活動につきましては共に社会教育の一貫として継続して行きたいと存じております。

先代の父が良く語っておりました「学校教育、社会教育、家庭教育の中、子ども会活動は社会教育であり学校、家庭で目の届かない面を育て、役職、発言、友人関係、礼儀などを指導して行く要件である」と。私も時代の変化、情報を取り入れながら継承して行きたいと存じております。私自身も地元の小学区（市立仲町小学校）子ども会活動の経験者としてご指導いただきましたが行事の内容のついては一つ一つ楽しく厳しかったことを鮮明に記憶しておりますし、現在の立場における基礎であると確信致しております。

少子化・子ども会活動の今後の課題と思われませんが、一家庭から学校、社会、将来は日本国の舵とりとなるべく大切な人材を育成してゆきたい所存であります。

10周年を迎えるにあたり、市行政関係、各地区役員、単位子ども会役員、子ども会会員の皆様にご敬意と祝意を表し20周年に向け頑張りましょう。



筑波サイエンスツアー



浦和おどり

南区

南区子ども会の歩み

田中ミサ子
南区子ども会連合会会長

まずはじめにさいたま市子ども会育成連絡協議会の発足 10 周年に際しお祝いと感謝の言葉をこの場をお借りして述べさせていただきます。

さて、私たち南区子ども会育成連合会は現在 62 団体、約 6000 人の皆さま方と活動させていただいております。

この 10 年の間、南区という地域の持つ特色を生かしながら、なるべく多くの会員の方々と積極的な活動が出来る様に試行錯誤を繰り返してまいりました。

そして、今では様々な方々の手厚いご協力によりまして、夏休みのロッテ工場見学会、冬休みの映画鑑賞会等が恒例行事として定着してまいりました。

それに伴いまして行事を楽しみに会員の方々にお申し込みをしていただけるようになってきたと実感してきた次第です。



ロッテ工場見学の様子

先に述べましたように現在、南区子ども会育成連合会の中心的な行事の一つであるロッテ工場見学会は夏休みの一日を利用し子ども達（保護者の方々とともに）に、南区沼影に所在を置くロッテ工場の中を様々な体験をさせていただきながらめぐってもらおうという行事であり、ご家族単位でご参加していただくことによって、自然と会話も増え子ども達の嬉しそうな様子を見ることができます。その様子を見ると開催する私たちも夏の暑さなど忘れてしまう程です。

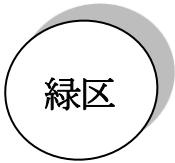
私個人といたしましては、運営形態が浦和市からさいたま市へと移行しそれに伴って新たに、区ごとの育成連合会を立ち上げなければならないということに少なからず困難と困惑を覚えることもございました。

しかし、何もないところからのスタートであった南区育成連合会の活動を現在の形にすることができたのはひとえに皆様のお力添えのおかげであるとひしひしと感じ、あらためて感謝の思いを述べたい次第でございます。

近年の少子化及び、習い事などの多様化によって子ども会の活動自体を継続していくのが難しいという意見など、寂しいご相談をお受けすることも多々あります。しかしその一方で、他学年との交流、集団での活動の重要性も見直されてまいりました。南区の人口増加に伴い新しく発足する子ども会も徐々にではありますが増えてきているのは大変すばらしく、私にとっては嬉しいニュースです。

これからも単位子ども会が少しでも活動しやすい様にサポートし、南区子ども会育成連合会として皆さま方と様々な形で関わり、そのニーズになるべく沿う形で南区の子どもたちのための子ども会を目指し運営していきたいと考えております。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。



緑区の10年

厚澤日出男
緑区子ども会連合会会長

さいたま市子ども会育成連絡協議会発足10周年おめでとうございます。

皆様、ご承知のとおり、平成13年に、浦和・与野・大宮三市が合併し、さいたま市が誕生いたしました。これに伴い子ども会も新たにさいたま市連が同年6月に設立されました。しかし、すぐに合同事業という訳にはいかず、旧態依然の連合会で活動が続けることとなり、私たちは旧浦和市でしたので、浦和市の“市”を外し、浦和子ども会育成連合会と名称変更し、東・西・南・北の4ブロックで合同事業を行ってまいりました。

平成15年に政令指定都市となり、2年後、岩槻市が合併し、10区に分割されました。私たち緑区は旧浦和の東部ブロックの一部と北部ブロックの一部とで構成されました。旧浦和市時代の浦子連は教育委員会青少年課の管轄で、事務局・会計は青少年課の職員が担当し、我々はお手伝いの域を出ないような行事体系でしたが、さいたま市となって、行政は子ども会業務から一切手を引き、助成金をいただき自主事業となりました。行政の指導により、助成金の関係もあるので、各区で子ども会連合会を立ち上げることとなり、緑区も平成17年3月に緑区子ども会育成連合会を発足させました。

しかし、従来のブロックとは異なった区割りとなったため、役員も不足し、各区ではとても自立できないということで、浦和・南・桜・緑の4区で合同事業を行うということになりました。平成18年度も、当面この体制で行うということで、浦和子ども会連合会として当時の相川市長にもご列席いただき、4月に総会も開催されましたが、青少年課の強い要請により、平成18年7月7日に臨時総会を開催し、連合会を解散いたしました。しかし、突然のことで各区が独立して行事を実施することには不安があり、自立できるまでということで、浦和子ども会育成連絡会と名を変え自立体制を確立できるまでという条件の下活動しました。平成19年4月には、連絡会として総会も開催いたしました。

緑区では、平成19年6月26日臨時総会を開催し、これよりは区自体として活動するとして、常任理事も多数任命でき、独立して連合会を運営してまいりました。事業としては、浦子連時代のノウハウを継承して、筑波宇宙センターへのバス見学ツアー、県子連・市子連主催のカルタ大会への参加のほか、浦和レッドダイヤモンドズのホームグラウンドである埼玉スタジアムが緑区にある利点を生かして、人工芝のグラウンドを借りて、子どもたちに人気のサッカー体験学習を浦和レッズの選手の指導により実施いたしました。会員数が多いので、全員参加という訳にはいきませんので、募集後に抽選をして参加者を決定するのですが、子どもたちには好評で、予算の関係もありますが、もう少し規模を拡大したいと思うほどです。

子ども憲章は広く子どもたちから募集し、緑区「子ども憲章」策定委員会を設置し、次のように決まりました。

わたしたちは、夢や希望を抱き素晴らしい未来へはばたきます！「ありがとう」と「思いやりの心」を忘れずに、心身を鍛え友情の和（輪）を大きく広げ、この緑区『子ども憲章』を定めます。

☆☆ さいたま市緑区子ども会・シンボル旗 ☆☆



大旗



手旗

『子ども憲章』

「友だちは宝物 助けあう勇気を持とう」
「毎日を感謝の心で 夢に向かって努力しよう」
「環境・自然・命を大切にし 大きく翔こう！」

平成21年8月11日には、区長さんのご列席をいただき、緑区子ども会の「子ども憲章」制定式と「子ども会旗」発表会を行いました。

この憲章を守り、これからも緑区子ども会育成連合会を益々発展させ、継続できるよう、種々悩みもありますが、努力してまいりたいと思います。



岩槻市子ども会の歩み

多ヶ谷長喜
岩槻区子ども会連合会会長

さいたま市子ども会育成連絡協議会の発足10周年、おめでとうございます。

昭和40年に、岩槻市子ども会発足準備委員であった佐藤惣四郎氏と金子忠孝氏との努力によって、連合子ども会が産声をあげ、佐藤氏が初代会長に任じられました。その後、二代目会長に渡辺盛之助氏が就任され、二年後に学校の先生であった青木敏氏が三代目の会長となりました。青木氏は、埼玉県子ども会の歌の作詞を応募作の中で見事に採用され、今日でも多くの方々に歌われております。先生の熱意により、約2,000人の会員がおります。

毎月のように事業をこなし、4月はミニ運動会で場所を取るのが大変でした。押し花教室や折り紙教室、ギョウザ作り教室の他三世代交流グラウンドゴルフも行いました。おじいちゃん・おばあちゃん世代と育成者及び孫で、三面のコートを使用して盛大かつ仲良く楽しく過ごしました。7月には、地域で太鼓の練習をして、8月の盆踊りで大活躍をしました。岩槻祭では非行防止のパトロールを行い、子どもたちに土の感触を持ってもらうために芋掘り大会をやりました。秋には、クリスマス会を営んで、メインイベントは岩槻市主催のカルタ大会です。市内の小学生から募集して、岩槻市教育委員会が製作した郷土カルタを用いて行いました。一方、県子連主催のかかるた大会では埼玉県郷土カルタを使用していたので、岩槻市の大会が終わると県大会の予選になり、時期的にも近く双方を記憶しなければならなかったのも、子どもたちは忙しい思いをしたことと思います。

平成17年4月さいたま市と合併して、さいたま市岩槻区となり、埼玉県郷土かるたに代わって、二十一世紀郷土かるたが県大会で使われるようになり、さいたま市の大会で勝ち残り、さいたま市代表として県大会に出場しています。そして、3月に卒業生を送る会をして1年間の事業が終わるということになります。

一年間の事業が終わる頃になると、単位の子どもの会の役員さんも、「連合子ども会の行事を楽しく仲良くできたので、役員をやって良かった」と言ってくれます。「とても時間のたつのが早く、充実した年間であった」と感想を語る人もいました。

青木会長の死去に伴い、副会長であった多ヶ谷長喜が昇格して4代目の会長に就任しました。岩槻市とさいたま市との合併により、予算が急に減額されてしまいましたが、子どもたちに喜んでもらおうと、会長をはじめとして役員さんみんなが創意工夫をして、種々の事業の実施に努力を傾けております。

現在の親たちは、自分たちの楽しみを子ども会の役員になることによって奪われては困るということで、役員を受けない人が増えてきました。岩槻区においても役員の手が少ないために解散する子ども会が出てきています。しかし、これからも創意工夫をして、未来のよりよい青少年を育てていくのが、子ども会育成者の努めであり、義務であろうと思います。仲良く、楽しく、そして怪我をせずに親と子が遊べるように、また、良い思い出を一つでも多く作ってもらいたいと考えています。

また、ジュニアリーダーは、子どもたちの大切な兄さんお姉さんであり、指導者であると思います。今後とも子どもたちとの絆を維持してくれるように、よろしく願います。



十年間

阿部浩行

さいたま市子連 J L 研修指導者

さいたま市子ども会育成連絡協議会 10 周年おめでとうございます。

十年前、私はまだ高校生でした。現役ジュニアリーダーとして活動しており、様々な活動に参加していました。それは自分の技術を磨きたいという思いもあったのですが、それ以上に友達を増やしたいと思ったからです。

私は高校三年生の時に栃木県で行われた、ジュニアリーダーの関東ブロック大会に参加しました。そこでは、今まで自分が体験したこと無かったことや知っているゲームでも創意工夫で違うもののように見え、大変参考になりました。また、強く印象に残っているものが出会った仲間達でした。皆ジュニアリーダーということもあり、すぐに打ち解け何年もそうしていたように仲良くなれました。神奈川県や長野県といった違う地域の人たちと話すことができ大変勉強になりました。

その後、私は高校を卒業し大学生となり、ジュニアリーダーのクラブ生から指導者となりました。最初の 1~2 年間はそれまでと変わらず派遣事業に赴いたり、研修のお手伝いをしたりしていました。

そして、大学生 3 年生の夏、2泊3日の野外研修（キャンプ）で総括をやることになりました。初めてのことで右も左もわからず、ただ闇雲に行動していました。その時、人に指示する難しさ、指示するには今まで以上にスケジュールを把握していなければならないということ学びました。そんな頼りない私を支えてくださったのが役員の方々や先輩の皆様、お手伝いをしてくださった指導者や高校生の皆様でした。今でも深く感謝しております。

ただ、このキャンプではそれまでにない新しいことに挑戦しました。それはスタントの寸劇化です。それまでのスタントは一発芸のような出し物が多かったのですが、キャンプの打ち合わせの段階から班付の方々に説明し、念入りな準備をお願いしていました。これは先の関東ブロック大会で、私がキャンプファイアーで経験し、是非研修で取り入れたいと考えたからでした。キャンプ当は雨が降ったことも幸いし、班内の打ち合わせも進み、内容も良いものとなり結果的には皆様に好評を頂きました。

私は今まで、総括という大役を努めたことが無かったので、大役を果たせた満足感とお褒めの言葉をいただいたことがとても嬉しかったです。

大学も 4 年になると就活で忙しく、なかなか活動に出にくくなりました。そして就職したのですが、休、祝も勤務だったため、活動がますますできなくなりました。しかし、諸事情により転職したことで、大学卒業から 1 年半程で指導員に復帰しました。復帰して最初の活動が地元の子どもの会のデイキャンプでした。当初は顔を出す程度の予定だったのですが、人手が足りないとのことでキャンプファイアーのエールマスターをやりました。約 2 年半のブランクはとても大きかったことを覚えています。

それから現在まで活動を続けています。現在ではさいたま市子連の J L 研修でのお手伝いのみならず、教壇に立って講義を行うこともあります。慣れないため、講義という言葉だけで人に伝えるのが非常に難しく大変です。もっと今以上に多くのことを学び、努力しなければならないと感じています。

自分が現役の頃に培った技術や知識を指導者となった今、しっかりと現在のジュニアリーダーに伝えていきたいと思えます。

